

2025 年 7 月 11 日 第 3519 回例会

於： 横須賀商工会議所



<点 鐘・開会> 12:30 山 下 会 長

<斉 唱> 「我等の生業」

<ゲスト紹介> *特定非営利活動法人むすびいと 理事長 池 井 将 様

<会 長 報 告> *国際奉仕委員会：ネパールとの水と衛生事業の横須賀ロータリー
クラブ負担金の送金報告について

\$3,675 = ¥532,875 を国際ロータリーへ送金

*HPに掲載の週報について、個人情報保護の観点から誕生日を生まれ年のみ記載

<委員 長 報 告> *国際奉仕委員会 加藤(淳)委員長よりグローバル補助金の説明と
チトワンロータリークラブの来日 MOU 締結式について

*ローターアクト委員会 権田委員長より第1回ローターアクト例会開催の報告

<幹 事 報 告> *ガバナー月新 No. 1

*地区大会開催のお知らせ

9月6日～7日 於：レンブラントホテル厚木／伊勢原市民文化会館

*第2660地区ライブ配信のご案内 8月1日(金)

*例会終了後 社会奉仕委員会開催

<出 席 報 告> *出席委員会 浅葉委員から7月11日の出席報告

会 員 数	出席対象者数	出席数(ZOOM 出席数)	欠 席 数	メイクアップ 数	出 席 率
111名	101名	65名(2名)	36名	5名	68.63%

メイクアップ：Rogers 会員 国際大会出席 小保内、北村両会員 地区委員会出席

小林(一)会員 理事役員会出席 高橋会員 第1G会長幹事会出席

<ニコニコ報告>

・三 役 特定非営利活動法人むすびいと 理事長 池井 将様、お久しぶりでございます。
今後の活動報告含め本日の卓話楽しみにしております。

・加藤 眞、荻 山、植 田、江 口、田 中、松本 剛、鈴木 健、杉 浦、加賀本、
濱 田、小 澤、小佐野、杵 渕、齋藤 眞、吉田 久、鈴木 健、萩 原、澤 田 各会員

特定非営利活動法人むすびいと理事長 池井将様ようこそお越し頂きました。しずくち
ゃんを救う会の活動など、未来ある子ども達の為の様々なお話を聞けるのを楽しみにし
ています。本日の卓話よろしくお願ひいたします。

・杵 渕、高橋 健 両会員 誕生日祝いとして

・大野 健、木 村、山 下、岡田 圭、八 巻、兼 城、角 井、植 田、
岡田 健、小山 健、瀬 戸、八 木、加賀本、前 田、徳 永、齋藤 眞、
上 林、三 堀、齋藤 眞、土 田、田 邊、長 尾、椿 各会員

今週の神奈川新聞に平松会員、岡田英城会員が掲載されました。平松会員は、かながわ
信金が日本政策金融公庫との災害時に業務提携をする、岡田英城会員は横須賀交通安全
協会副会長として存続への新事業など、互いに今までにない新たな取り組みになりま
す。安全協会には多くの会員も関わっており、今後が楽しみです。

・山 下、石 田、高橋 健、八 巻、谷、兼 城、角 井、権 田、小林 健、
森、瀬 戸、濱 田、齋藤 眞、田 邊、根 岸、渡 邊、長 尾 各会員

本日のタウンニュース人物風土記より 川名会員が横須賀学院の第6代理事長に就任さ
れました。44年にわたる教員歴や野球部の顧問などを20年以上勤められたなど川名
会員の熱い思いが綴られています。ロータリークラブの記述もあり、これからもよろし
くお願いします。

・五十嵐 会員 最終例会ではいろいろとお世話になりました。

・浅 葉、梶 木、小山 暢、齋藤 崇、齋藤 眞、比護 各会員

三浦海岸が2年ぶりに三浦市が主体となって新しい海水浴場として生まれ変わります。
今週の土日は「MIURA FUN BEACH 三浦海岸 waku- waku 海開きオープニングイベント」として日曜日は横須賀出身の飯田浩司アナウンサーらの公開生放送も予定しています。
昔の賑やかな三浦海岸が復活することを期待したいですね。

<卓 話>

「多様な現場で聞いてきたこどもたちの声」

特定非営利活動法人むすびいと

理事長 池 井 将 様

みなさん、こんにちは。特定非営利活動法人むすびいとの代表理事をしております池井と申します。今日はお話する機会をいただき、本当にありがとうございます。実はロータリークラブの皆さんの前で話するのは、これで何度目かになるのですが、これまでは私自身の活動や福祉基金についてご紹介してきました。でも今日は、せっかく山下会長から「地域や社会の課題にも触れてほしい」とリクエストもいただいたので、現場で出会った子どもたちのリアルな声を交えながら、少し私の主観も混じりますが、地域や社会、教育の現状についてお話しできればと思います。ちなみに私、今年で32歳になりまして、子どもたちの活動ばかりやってきたので、そろそろ人生のパートナーも見つけないかな…なんて思ったりもしています(笑)。ですが今日は、ふざけすぎず、子どもたちの活動を中心にお話しさせていただきますので、どうぞよろしくお願いいたします。私は大阪で育ち、関西学院大学を卒業しました。ここのスクールモットーは「マスタリー・フォー・サービス」——日本語にすると「奉仕のための修練」です。学生時代はあまりピンときていなかったのですが、今思えばロータリーさんの理念とすごく近いものを感じています。そんな思いもあって、ここ10年ほどは子どもたちの支援活動に力を入れてきました。

ちなみに、1992年生まれの独身です。パートナー探しも並行して頑張っておりますので、何かご縁があれば(笑)。まず、7年前の話をさせてください。私の知人の小学校2年生の娘さんが重い心臓病になり、「心臓移植しか助かる道がない」と言われました。でも日本では小児の心臓移植は年間数件しか行われておらず、アメリカに行くしか助かる方法がないような状況でした。その女の子が「アメリカに行ったら助かるんだ」と言ったとき、日本にいたら助からないんだ…と痛感しました。アメリカでは年間300件近くの小児心臓移植が行われているのに、日本では数件。人口比を考えても、その差は歴然です。アメリカでの医療費はとても高く、ICUに泊するだけで180万円もかかるともあります。それでも、皆さんのご支援のおかげで、その女の子は無事に移植を受け、今は高校生として元気に学校に通っています。この違いは医療設備だけでなく、文化の違いも大きいと感じます。アメリカには「誰かにギフトを贈る」という文化が根付いていて、ドナー登録も積極的に行われています。こうした文化の違いが、救える命の数にも影響しているのだと思います。次は、シンガポールでのエピソードです。現地の中学生が「私の友達は12歳で自殺した」と話してくれました。シンガポールは学力テストで常に世界トップクラスですが、12歳で大きなテストがあり、合格すればエリートコース、失敗すれば職業コースに進むという仕組みです。テストに落ちた子の中には、将来に絶望して命を絶つ子もいるそうです。また、カンボジアやウガンダの子どもたちの夢は



「兵士」「警察官」「先生」しかない、という話も聞きました。身近な大人の姿しか将来像を描けない——これは日本でも同じことが言えると思います。子ども時代にどれだけ多様な選択肢と出会えるかが、本当に大切だと感じました。例えば大谷翔平選手も、もし野球を知らずに育っていたら、今の活躍はなかったかもしれません。子どもたちが自分の可能性を広げられるよう、いろんな体験や出会いの場を作ることが大事だと、日々感じています。さて、ここからは横須賀の話です。皆さん、「1405人」という数字、ご存知でしょうか？これは、横須賀市の小中学生で、現在学校に通っていない子どもの数です。市内の学校3校分に相当します。不登校の子どもたちは年々増えていますし、神奈川県内でも横須賀は特に割合が高い自治体の一つです。私が関わった家庭では、お母さんが朝から晩まで働き、なんとか子どもたちの食事を用意する生活をしていました。あるきっかけで2人の子どもが学校に行かなくなり、お母さんも働けなくなって、家計がどんどん苦しくなっていました。こうした複合的な要因が絡み合って、不登校の問題はとても難しいのが現実です。学校の風景って、昭和や明治の時代とあまり変わっていません。机が並び、黒板を見て授業を受ける——でも、社会や世界はこの数十年で大きく変わりました。スマホが普及し、情報環境も激変しています。そんな中で、学校だけが変わらないままだと、多様な子どもたちのニーズに応えきれなくなっているのではないかと感じます。不登校の子どもたちは、いじめなどの対人トラブルが原因というより、繊細な心を持つ子が多い印象です。例えば、ドラえもん映画でジャイアンがのび太をいじめるシーンが辛くて、映画自体を観られない子もいます。私自身も、そうした子どもたちと接する中で、感受性の強さに驚かされることが増えました。また、別のフリースクールに通う子が「学校に行っていた方がマシだった」と話してくれたこともあったそうです。自由な環境は一見良さそうですが、自分で何をするか決めることの難しさや孤独もあるんだな、と気づかされました。今の子どもたちはとにかく忙しいです。授業時間も増え、習い事も多く、家事の手伝いまで求められる。例えば、朝6時半に起きて夜9時まで、ずっと何かに追われている子もいます。こうした生活の中で「もっと主体的に動きなさい」と言われても、なかなか難しいのが現実です。YouTubeひとつとっても、子どもたちは自分で動画を選ぶというより、流れてくる動画に反応する子が多い気がします。自分から何かを選ぶ経験が減っているのかな、と感じます。最後に、ロータリークラブの皆さんにお願いがあります。私たちのように子どもを支援する人たちは、つい視野が狭くなったり、自分自身や資金を消耗しがちです。そんなとき、外部からの励ましやアドバイスが本当に力になります。「頑張ってるね」「応援してるよ」——そんな一言が、私たち支援者にとっては大きな支えです。もちろんご寄付や物資もありがたいですが、時には冷静な視点からのアドバイスや見守りの声をいただけると、とても嬉しく思います。今日は時間の都合で駆け足になってしまいましたが、私からのお話は以上です。最後までお聞きいただき、本当にありがとうございました。

<閉会・点鐘> 13:30 山下 会長

週報担当 岡田 圭太